

TAMC

会報

Bulletin of the Tokyo Amateur Magicians Club,
Special Number in Memory of KAWASAKI Toshiaki Sep. 2023

川崎利秋君追悼特別号

令和5年（2023）9月



（2007年家族会）

当会最長老の川崎利秋さんは、令和5年（2023）7月15日午後零時23分に逝去されました。川崎さんは大正14年（1925）生まれで97歳。入会は昭和37年（1962）12月で、会員歴は実に60年余となります。

ここに謹んでご冥福をお祈りするとともに、会報の特別号として「川崎利秋君追悼号」を編集することとしました。川崎さんの思い出として、記念誌・会報に掲載された川崎さんの遺稿を再掲するとともに、親しかった会員からの追悼文を収めました（幹事長）。

目次 遺稿篇

会員一言 (『50年のあゆみ』) ……2	二十分講話 (血液型の話) ……2
随想 (60年記念誌) ……3	備えあれば憂いなし (70周年記念誌) ……4
平成21年新年会 乾杯のスピーチ ……5	三人の恩人 (80年記念誌) ……5
我が闘病記 ……7 長寿の秘訣 ……8	健康についての話 ……8
人間万事塞翁が馬 ……9	卓話「健康について」 ……11

追悼篇

村上日出夫 ……13	森田晃 ……13	犬竹一浩 ……14	氣賀康夫 ……15
蔵原克治 ……16	池内和彦 ……16	近藤誠 ……17	山崎孝一 ……18
柳川幸重 ……18	高橋哲夫 ……18	鈴木眞弓 ……18	
LINE に寄せられた会員メッセージ ……18			

編集後記 ……20

[附録]別伝 日本の達人ビジネス社会に提唱する「血液型人間学」の大家川崎利秋さん ……20

【遺稿篇】

◆会員一言 (『50年のあゆみ』)

昭和37年暮もおしつまったある日、ある宴席で、森田銈治郎さんの手品を拝見したのが、TAMC入会のきっかけとなる。

昭和38年9月15日の第18回試演大会が初出演。森田さん直伝のテープ切りを演じ、手が震えて鉄が上手に使えなかったことが強く印象に残っている。誰であったか忘れたが「舞台に立つと、何十年やってもあがるものですよ」と慰められたことも、懐かしい思い出である。

あれから18年、大して上達しないまま、内心忸怩として今日に至っている。

◆二十分講話 1986年9月18日 例会

血液型は女性の方、奥様方が興味を持たれて、此の10年程前からブームになった。私の血液

型への馴れ染めは雑誌(経済界)に書いた通り、能見正比古氏の講演を聞いてからです。

能見さんは新血液型人間学(角川文庫)を書き、科学的な統計法を駆使(最小自乗法、有意差検定等)して気質特性を分析研究されて4つの型(A、B、O、AB)に分類された。尤も紀元前ヒポクラテスが、人間4原素説を発表しているし、ユング、フレッチマン、フロイド等が研究しているが、何れも片寄ったものやデータ量も少ないものでした。又血液型で人間理解のサークル活動の会を発足させたり、人間科学々会を組織(昭和56年)、私にビジネス界を代表して入れと言われてから深い繋がりになったのです。

能見さんは新宿三越で講演中に急逝される程、心身を打込んだ研究をされたのです。私は以後ご子息をバックアップする立場で、テレビやマスコミに登場する事にもなったのです。

私達は血液型を相性診断や人相学的な話題にされる事には反発、人間理解の科学的手段として血液型を考えているのです。然し批判の声もありました。文春(血液型人間学のウソ)、NHK(能見ご子息と医師の対決)、日本テレビ(血液型ブームを切る)等は反対論の殆んどが医師で、且つ能見・血液型論を読んでの反論ではなかった——占いブームの話の聞いただけの批判でした。

能見さんは「持って生れた人間特性があって、それを4つの血液型に決めつけてはいけない」と言って居られるのです。人間の身体を構成する(髪の毛、爪、体液等)あらゆるものから血液型が解る——10数種類が発見されているが、尤もポピュラーなのがA、B、O型だというもので——持って生れた気質特性であるというものです。

血液型の効用と言えば、人間の体の部分は医学で窮められたが「心」の方は解っていない。それを血液型手法で理解を進める——集団の中で旨くやって行く人間理解と自分を客観的に見る。つまり持って生まれた性格特性を解った上で、自分を磨き上げる手段として(世の中を旨く治める)「血液型の理解と活用を計る」ことにあるのです。

因に能見さんは東大(電気学科)卒業の上、更に工学部で勉強(中退)され、大宅壮一の門下で、放送作家、スポーツ評論家として活躍された由。(更に具体的な事例を引いての熱弁がありました)

◆随想(60年記念誌)

奇術をテーマにしたスピーチを頼まれることが時々ある。その時は、まず日頃やり慣れているものを二つ三つ演じてみせる。そのあとスピーチを始める。

「奇術をお見せすると、必ず出てくる質問が三つあります。

ひとつは“器用でないと出来ませんよね”

二つ目は“どういうきっかけでお始めになりましたか” 三つ目は“何年位おやりになっていますか”

今日は、以上の三つの質問にお答えするかたちで私の話を始めさせていただきます。

まずひとつ目の器用さのことです。誰もはじめから奇術を身につけていたわけではありません。プロでもかえって不器用といわれていた人の方が成功した例が多々あります。“拙修”という古い言葉があります。何事も、たとい才能に乏しくともたゆまぬ努力によって上達するという意味です。

正しいやり方をキチンと教わって、繰り返し練習されれば、ちゃんと人前で見せられるだけの程度には誰でもなれます。

二つ目はどういうきっかけかということですね。

小学校三年生の頃だったと思います。ほろ酔い機嫌で帰宅した父が、何度か見せてくれた奇術が、奇術とのはじめての出会いでした。ちり紙を裂き、束ねて火を点ける。燃えかすを両掌の中でもんでいるうちにお札が現われる。口三味線に乗って、身ぶり手ぶりおかしく踊りつつ演じる父。眼を輝かせて見入る兄弟三人。半世紀を超えてなお、当時の情景がまざまざとよみがえってきます。

こうした下地があっただけか、昭和30年頃、デパートに設けられた奇術用品売り場に立ち寄っては、奇術道具を買う習慣が付きまします。簡単なものを家族や会社の仲間に見せては得意になっていた程度のたあいのない趣味でした。

昭和37年の暮近く、仕事の関係で知り合った、現在名誉会長の森田さんのすすめで、TAMCに入会させていただいたのが、奇術を本格的な趣味とすることになったきっかけといえましょう。

従って三つ目の質問に対しては、約30年と答えることにしています。」

以上が私のスピーチの序説部分で、あとはその時に応じて奇術にからまる色々なエピソード

ドとか奇術の効用について話すことにしている。

私にとってエピソードの最たるものとして忘れることの出来ない思い出に触れておきたい。

昭和33年8月21日、出産をひかえた妻と新宿の伊勢丹へ買い物に行く。買いものが終わると例によって奇術用品売り場へ足が向く。妻はあきらめたように近くの休憩室で待つことになる。仕込んだ奇術を夕食後、妻に見せる。スポンジで出来た犬二匹を妻に握らせおまじないをかけてから手を開かせると、二匹のほかに小犬が数匹コロコロと出てくる。妻は文字通り腹をかかえて笑いこける。間もなく産気づいたようなので、あわてて病院に連れて行く。予定より10日ばかり早い。ところが翌朝早く丸々とした女児誕生。妻は生んだ気がしないという程の大安産。これには妻も兎もいぬ年というオチまでついている。

スピーチの締めくくりとして必ずサーストンの三原則に触れることにしている。

また、ちょっとアカデミックに“奇術の歴史”という題で、間で奇術を見せながら話すこともある。

◆備えあれば憂いなし(70周年記念誌)

奇術を趣味としている以上、何も奇術用具を持っていなくても、いつでもどこでも演じられるだけの備えが必要だと考える。その為には手近な材料であるコイン、紙幣、ティッシュ、ハンカチ、タバコ等を使う奇術を日頃からいくつか練習を重ねて自家薬籠中のものにしておく必要がある。また輪ゴム、カードぐらいは必携の身の回り品のうちに入れておくべきであろう。輪ゴムといえば会員の犬竹さんは、いつも上着のボタンに巻きつけ用意されているのには感心した。

生前、高木重朗氏からサムチップを常に携行することをすすめられ実行している。専ら赤い

シルクをハンカチから出したり消したり、亦お札を借りて筒状に丸めてシルクを出したり消したり、千円札を一万円札に変えたり元に戻したり、といった使い方をしている。

また、かつてナポレオンズから習ったボディマジック三態も大いに活用している。

一つは腕の肘の関節が外れたかの如くに肘を支点にして腕が円を描いて回転する“関節外し”。

二つ目は服の袖から腕が伸びて出てくる“伸びる腕”。

三つ目が両膝に両掌を当てたまま両膝を左右に開いたり閉じたりすると膝がすれちがって見える“すれちがう膝”である。

“関節外し”と“伸びる腕”は、コツさえ掴めば容易に出来るが、“すれちがう膝”は相当の練習を要する。両膝をきちんとつけてから、すかさず両掌を置き換えるので勢い、膝同士を思い切りぶっつけての練習を重ねることになる。気がついてみると何とぶつけあった箇所夫々に赤痣が出来ていた程である。

宴席などで急に「何か演ってくれ」と言われた場合に、演じて受けるものの一つに“若狭の水”がある。既にTAMCの試演大会で三回も演じており、且つまた、日頃、口上を繰り返し語っているのも容易に対応できる自信がある。何しろこれを演ずる場合、現象そのものの不思議さが見せ場ではなく、口上の面白さに真骨頂がある。それだけに淀みない流暢な“口上”こそが肝心である。

尾籠な話で恐縮だが私にとって便所こそが“口上”暗誦の場である。これも十二年前胆嚢摘出手術後便秘がひどくなっていたので、その対策として腹圧をかけるため声を出して“口上”を語んじることにしたのである。つまり一石二鳥というわけである。

この芸は、扇子と半紙三枚を用意しておけば、あとはどこにでもある水差しとコップ二個を借りればすむ。また、扇子と半紙の用意がなくても“口上”だけでも結構喜んでもらえる。

また、初対面の方にお会いする際、差し障り

の無い限り藤原邦恭氏考案の“スーパーワレット”を使って名刺交換をしてびっくりさせる。これは札入れの中で白紙が本物の紙幣に変わる!?次にその紙幣が目の前で瞬間的に名刺に変わるという現象である。

以上が「備えあれば憂い無し」の私なりの実践例の一端である。

◆平成21年新年会 乾杯のスピーチ

自由に満ちた老後を完全燃焼して生きるには余熱がある。色々な人の余熱を探って書いた城山三郎さんの『人生余熱あり』によれば、次の四つの共通項があるという。

- (1)世の中とのかかわりを多くして生きること。
- (2)つとめて人間に対する興味や好奇心を持つこと。
- (3)老いの意識を持たぬこと。
- (4)惰性で生きず、常に自分を新しくする生き方をする。言い換えれば、勉強家であり続けること。

ご出席の皆さんは若い方を含め、マジックという趣味によって、余熱のある充実した人生を送られんことを祈願いたします。



2008年 新年会

◆三人の恩人(80年記念誌)

TAMC 会員として51年目を迎えたが、その間、多くの方々にご厚誼をいただいて今日に至ったことにあらためて感謝の意を表したい。そのなかでもとりわけ深いかわりを持ち、ご指導いただいた三人の方についての思い出を述べてみたい。

なんといっても先ずはこの奇術の世界に導いてくださった第12代会長森田銈治郎さんのことから始めよう。

昭和37年の某月某日森田さんから築地の料亭でおもてなしを受ける。当時、私は、セーラ一万年筆(株)の経理課長をしていた。森田さんは日本建設(株)の役員であった。森田さんの出身母体である第一生命保険相互会社から融資を受け、日本建設が八王子の工業団地に500名規模の万年筆の製造工場をつくることになっていた。上司の経理部長と部下の主任共々ご接待をいただいたわけだ。

その席上で森田さんのご趣味の奇術をご披露いただく。その頃、デパートの店頭にマジックショップが登場して間もない頃であった。幼い頃、父から見せてもらったり、外国人のマジックショーに連れて行ってもらったこともあったので、興味に火が点き、簡単な用品を買ってきては家族や職場の仲間に披露して得意がっていた頃であった。そのことを話したのがきっかけで森田さんの推薦をいただき、入会の運びとなったのである。

ところが毎日夜の10時とか11時ごろまで仕事に追われる状況で、殆んど例会には出席不能である。そのことを話すと「将来例会出席が可能になるまで、年に一回行われる秋の発表会だけには出演することにして会とのつながり保ちましょう。私が責任を持って指導申し上げるから」と励ましてもらい、その後は恐縮するほど懇切なご指導のおかげで、約18年頑張り通すことが出来た。

初めてステージに立ったのが入会の翌年、昭和38年の第18回試演大会だ。サムチップと細いテープを使っての切ったテープを復元させ

る奇術である。拳から引き出したテープの真ん中部分にはさみを通して切るのだが、手が震えてなかなかはさみが使えず、冷や汗と脂汗が噴き出てくる。やっと切ってからなんとか手順どおりやり終えて舞台の袖に引っ込む。先輩諸氏から励ましと慰めの言葉をいただく。毎年ステージに立つうちにいささか度胸もついてくる。

また奇術劇の一員として参加させてもらうようになってからは TAMC の雰囲気すっかり馴染むことが出来た。このあたりにも、さりげない森田さんのご配慮の程が感じられる。

その後昭和47年、ミサワホーム（株）に転職し、ついで昭和54年に出向した先の会社の休日が木曜日なので、やっと人並みに例会への出席が可能となり、今日に至っている。森田さんのご配慮がなければ恐らく一年も経たずして退会していたであろう。奇術の趣味のおかげで充実した余生を送ることが出来ていることを思うと、心の底から森田さんに感謝の気持ちを捧げたい。

次はTAMCの大久保彦左衛門的存在であった安藤徳次郎さんとの関わりについて触れよう。誰彼の容赦なくきびしいアドバイスをいただくことで存在感のある方であった。

昭和57年のことである。ある日、幹事長の安藤さんから「役員会で川崎さんが私の後の幹事長に決まったからよろしく」、と告げられる。本格的に例会に出られるようになってまだ2年程で、到底その任に堪えられないと申し上げると、断るということは退会につながるという意味のことを言われ、文字通り有無を言わさずというかたちで承諾させられた。

安藤さんには奇術以外の世界に色々と導かれたことで、その後の人生が多彩となったことに感謝申し上げたい。安藤さんは当時東証一部上場のキンセキ（株）という水晶発振子製造の会社（後に沖電気（株）に売却）の創業者であった。また、事業家としてだけでなく、別の面の活動が多様であった。石原莞爾平和思想研究会、秋田雨雀・土方与志記念青年劇場、安岡学

研究会、西式健康法の会等を相次いで紹介されて入会、約20数年経った今日、解散になった西式健康法の会以外は今なお熱心な会員として継続している。

青年劇場では安藤さんのマジック指導の立場を継承、全国的に当たりをとった「シャッター通り商店街」出演の二人の女優の方にロープとサムチップを使うマジックを伝授する。飲み込みの早いのはさみになるかな、と感心したことが思い出される。

安岡学研究会は安岡正篤氏の著作を中心に東洋の古典を勉強する会だ。湯島の聖堂に隣接する斯文会館で毎月第一土曜日に12時半から16時半まで講師の方々の話を聞いて勉強する。盛会時には100名余の方が参加、その頃、代表世話人として活動させていただいた。入会の翌年新宿の京王プラザホテルで盛大な新年会が行われた時、安藤さんと共にマジックを演じたことが懐かしく思い出される。

安藤さんは、マッカーサーが一番恐れていたという石原莞爾、共産党の大物佐野学とも付き合い合った幅広い人脈を持っておられた。安藤さんの紹介で中野の渡辺医院に一週間入院、西式健康法体験し、今もその一部分を実践中である。どうしてあんなに目をかけていただいたのかと、いまだに合点がいけないが、敬愛の念ひとしおである。

三人目は高木重朗さんだ。昭和28年に入会され、企画部長の肩書でTAMCの会員をご指導いただいた。会の最後の30分間が高木さんの出番で、世界の最新の情報に触れながらの実演は、当会の白眉ともいえるべきものであった。

おかげで会のレベルも上がった。正に日本奇術会の第一人者であり、現在のプロのトップクラスの中にも、高木さんを師と仰ぐ人がいるほどの方であった。

高木さんの指導の下、いくつか発表会で演じたなかで記憶に強く残っているのが、昭和63年の発表会で演じた「天一のサムタイ」である。

両方の親指をひもでしっかり縛ってもらい、縛られたまま、両手を刀やリングに通す奇術で

ある。明治時代、松旭齋天一が欧米巡業で演じ好評を得たもので、今でも欧米ではサムタイのことを「天一のサムタイ」と呼んでいるようだ。

高木さんが初めて今までになかった本格的な解説を試み、詳細は奇術雑誌「不思議」に掲載された。その解説通りの指導を直接受けての出演であった。同じ頃、真剣を使って舞台上で演じられていた藤山新太郎さんの演技のビデオまで頂戴して練習をした。第10代会長の堀武さんがロンドンで買われたというステッキをお借りし、タキシード、シルクハットのいでたちで登場、客席からアシスタントとしてお願いした美女との呼吸の合った演技で、わがシナリオ通りうまくおさまってほっとした思い出は忘れられない。

高木さんが盛んに言っておられたことで印象に残っているのが「サムチップを大いに活用すべし。ポケットにおさまって、すぐにどんな場所でも使えて効果的なものなのに、演ずる人が少ないのは残念だ」という言葉だ。爾来、師の教えに従ってサムチップを大いに活用してきて大いに納得している。

超心理学会という会合に、講師の一人である高木さんのアシスタントという肩書きで参加させていただき、ユニークな話を多々聞かせてもらったことも忘れ難い。また私の関係する会社の社員教育やカウンセリングでは度々ご厄介になった。催眠術や推理小説、占い、パズル、心理学、落語から、さらにはワインの研究にまで及んだという多才ぶりには、ただただ脱帽あるのみ。

茅場町にあった事務所を訪れると、テーブルと二脚の椅子のある場所と、そこまでの入口からの通路以外のスペースは、天井近くまでビデオや本などで埋め尽くされていたことが強く印象に残っている。昭和63年以降の会員名簿の職業欄には「カウンセラー」と記載されている。名刺も晩年は「カウンセラー」という肩書だけのものだけを使っておられた程、カウンセリングの仕事に誇りを持っておられたようだ。「企業もこれからは、従業員の心の病いに対す

る対処策を真剣に考えるべきです」と強い口調でおっしゃっていたことが、脳裏にまざまざと蘇ってくる。



2012年大会 美女切断

◆我が聞病記(寄稿)

会報 平成27年(2015)3月号

昨年(平成26年)は、わが約90年の生涯で初めての病気づくめの一年であつた。

二月に二泊三日の入院で白内障の手術(眼の構造が特異なので難手術とて入院)。完治に一月かかる。

四月には屋内で転倒して肋骨三本に罅(ひび)、痛み止めを飲み、且つコルセットをつけての一か月の治療で完治。

五月には急性胃腸炎で日赤の救急病棟に入院。二十日間の絶食と点滴生活を含んで一か月の入院生活。

その後、食欲不振から栄養障害による浮腫が腰の辺までひろがり歩行困難となる。投薬治療でやつと膝下までの回復に四か月かかる。

ところが膝下半分から下の浮腫箇所が赤変し、次々と水泡が出来てはやぶれて傷になる。紹介された皮膚科の医院で治療すること四か月で水泡の発生完治。

しかし其の後二か月经つのに、赤変部分の浮腫はいまだに回復の兆しさ見え、しかも両膝の屈伸が不自由で、階段の上り下りがままな

らずという状態。

ところが、日赤の医師も、日頃通っている主治医である内科の医師も「足の下部は治るのに時間がかかるので、気長に投薬治療を続けましょう」の繰り返しだ。

医師によると、浮腫の原因は栄養障害のため、九割を占める血液中の水分が血管からはみ出して起こる症状であり、利尿剤の投薬により、はみ出した水分を尿として排出する治療法の由。

七月には再び屋内で転倒。おでこをしたたかテーブルの角にぶっつけ、大きなこぶができたので医院に駆けける。医師からは「向こう一年間は、くも膜下出血発症の恐れがあるので、家人にその旨を伝えておいてください」とのご託宣。

いやはや驚くべき一年であつた。

◆長寿の秘訣

平成27年(2015)10月1日 例会

(城山三郎氏著作『人生余熱あり』の要点紹介)

リタイア後の自由時間を完全燃焼して生きた人たちの余熱を探ってまとめたもので、次の四つの特徴をあげている。

1. とりあえず世間との関わりを多くして生きること
2. つとめて人間に対する興味や関心を持つこと
3. 老いの意識を持たぬこと
4. 惰性で生きず、常に自分を新しくする生き方をする。言い換えれば、勉強家でありつづけること

その典型例として先年107歳で亡くなられた心理学者鼻地三郎氏の長命の秘密は、幼いころから母親に躡けられた「よく噛んで食べる。一口30回噛み」を実行するため、75歳と103歳の時、大金を投じて精巧な義歯を作られたという。

104歳で矍鑠たる聖路加病院の名誉院長日野原重明の「新しいことに挑戦せよ」、と9

7歳で俳句を始められ、また99歳で10年連続日記を買い10年先までの予定を書き込まれたという。



◆健康についての話

平成27年(2015)11月19日 例会

WHO (世界保健機構) の健康についての定義

健康とは病気でないということだけではない。何事に対しても前向きの姿勢で取り組めるような精神、肉体、および社会的な適応状態をいう。

WHOの健康の7条件

- (1) 何を食べてもおいしい。
- (2) よく眠ることが出来る。
- (3) 快い便通
- (4) すぐ疲れを覚えない
- (5) 風邪気味でない
- (6) 体重が変わらない
- (7) 毎日が楽しく明るい

世界最古の医書と言われる中国の「素問」に万病のものは「悲」(いかり) にありと書いてある。

ある実験によれば 怒った時の息を液体空気で冷却したガラス管内に吹き込むと、揮発性物質が固まり栗色になる(正常な時は透明)。こ

れをマウスに注射すると数分後に死ぬという。それほど怒るということは体内に毒素を発生するので健康上よくない。

青山の脳病院の院長でエッセイストとして有名であった、今は亡き斉藤茂太さんが力説されていたことに、「一怒一老」「一笑一若」「笑う門には福来る」という言葉がある。

中国長寿協会の発表している「健康10則」に「興奮したり、怒ったりしないこと」「大いに笑うこと」が入っている。



◆人間万事塞翁が馬

平成29年(2017)2月16日 例会

「人間万事塞翁が馬《にんげん(じんかん)ばんじさいおうがうま》」という言葉をご存知だと思います。紀元前の「淮南子(えなんじ)-人間訓(じんかんくん)」という本に書かれている言葉ですが、中国では「塞翁出馬(さいおうしゅつば)」の4文字で言われています。

国境の砦の近くに住んでいた男が馬を一頭飼って、息子と二人で平和に暮らしていた。ある日、馬が行方不明になってしまった。ところが近所の人がお見舞いに行くと、男は平然としていた。そのうちにその馬はメス馬を一頭連れて帰ってきた。そして、子馬が生まれた。近所の人良かったですね、・・・と言ってもあまり嬉しそうな顔をしなかった。

そのうちに馬に乗って遊んでいた男の息子が、落馬して足を折ってしまい不具になってしまった。

近所の人がお見舞いに行くと、また平然とし

て、何が幸いするかわからないと言っていた。

そのうちに戦争が起きて、村の若者たちはみんな動員され、激しい戦争で、ほとんどみんな死んでしまった。ところが息子は不具だったので、戦争に出て行かなかった。無事に生き残った。

そういう寓話があります。

また、これも中国の史記に出てくる「禍福(かふく)は糾(あぎな)える繩の如し」という言葉があります。幸不幸は、より合わせた繩の様に相次いで交互に出てくるのが我々の人生の姿だということです。

自分の過去を振り返って見ますが、私は広島で原爆を受け被爆者手帳を持っています。原爆で奇跡的に2回、死を免れています。

当時、学業は停止され、中学生以上は疎開作業あるいは軍需工場に動員されていました。ついには大学生を対象に戦線に投入することになりました。学徒出陣と呼称された。最初に学生から募ったのは特別操縦見習士官で、特攻機に片道のガソリンだけを入れて敵艦に突っ込むと言うものです。その要員が募集され、私の友人が応募した。

その後、米軍の本土上陸作戦を阻止する目的で決死隊の指揮官の速成学校が作られた。私も当時兵役の義務があつて甲種合格となりいづれ兵隊にとられる立場だった。

どうせ死ぬなら兵隊で死ぬよりも指揮官で死んだほうが良いと思って応募し合格して、終戦前年の秋に熊本陸軍予備士官学校に入隊した。

10ヶ月の在学期間、外出なし休みなしの猛訓練の生活。ところが10ヶ月の訓練の残り最後の3ヶ月のところで私は足の傷からばい菌が入り、横綱小錦と同じ「蜂窩織炎(ほうかしきえん)」と言う病気になる、右足が化膿し見事に膨れ上がって、歩行不能となる。急遽、担架で運ばれて陸軍病院に入院した。

軍医が腫れ上がった足の甲6箇所をメスで切り裂いて指を突っ込み、中に固まっている膿塊を崩して膿を出すと言う、荒療治であった。

当時は麻酔の効きめが低いので、歯を食いしばって強烈な痛さに耐え続けた。治療は傷口にリバノールという化膿止めの薬を浸したガーゼを突っ込み包帯で巻くという程度であった。

その後、毎日治療を受けるわけだが、手術後最初の治療の際、ガーゼを抜き取ると、6つの傷口からヒルが這い出てくるかのように、膿がダラーと流れ出た。それを見て、軍医が看護婦に対して「切るのかなー」とつぶやいているのが聞こえ、いささか心配になる。軍医に「どういことですか？」と聞くと「貴様の命を救うために、右足首からちょん切ろうかなと思ってているのだ。」と事も無げに言った。

当時は抗生物質がなかったので、命を救う為に、手足を途中切断して化膿が移行するのを止めるという荒療治が普通であった。私の知っている男だが、命を救うために大腿部を切断されて、まもなく終戦を迎えたと言う人も居る。

その後、私の状態は、少しづつ良くなり、軍医から見て、何とかかなりそうだと言うことで、当分様子を見ることになった。その後、快方に向かって退院。

10ヶ月の訓練期間の締めくくりの3ヶ月が入院生活、これでは使い物にならない、お前は退学と言うことになり、実家の広島に戻った。

そして原爆投下の当日朝、実家で私はパンツ一丁で寝転んでいました。突如、大音響とともに屋根の一角が吹っ飛び、真っ赤な火球が浮いているのが見えた。隣に寝ていた末弟と一緒に、何が起こったかわからないので外へ飛び出した。軒先で顔を合わせた弟は「兄さんどうしたの？」と言うので、自分の身体を見たら、全身、血だるま、と言うことは、窓ガラスの雨戸の近くに弟が寝ていて、爆風によって飛散したガラス片群が、室内にバアアと飛んできたのである。

飛散したガラスが弟の体を越えた後に弟は立ち上がり、一方、奥のほうで寝ていた私はメリヤスのパンツ一丁で、立ち上がった瞬間に全身にガラスの破片を浴びたのだ。それで全身血だるま！

隣の家に遊びに行っていたお袋が、私の体を見てびっくりし、医者だ医者だと、共に医者に行ったが、みんなやられている。中心から3kmのところまで被爆したので家は半壊程度、結局、出血多量で一時失神したが、幸い通勤途中から逃げ帰っていた近所の日赤勤務の医師にカンフルを打ってもらい、まもなく意識を取り戻した。

軍隊で3ヶ月入院を経験し、自宅に帰って、また大怪我をした。この二つの大怪我が私の命を救ったのです。

陸軍予備士官学校と一緒に入った二人の同窓の友人は、無事卒業し、出身地配属の原則で原爆投下の真下の部隊に配属された。当然、爆心地だから二人とも死んでしまった。もし私も無事に卒業していたら間違いなく死んでいた。

原爆投下直後、真ん中の弟が田舎の養家先に出かけたまま行方不明になっていた。3日目に、救護所に収容されていた弟が見つかり、近所の人の手伝いで全身焼けただれだれを担架に乗せて連れ帰った。自宅の屋根の残っている部屋を掃除し、きれいにしておいて寝かせて、母と一緒に一晩看護したが、翌日、弟は息を引き取った。

もし私が怪我をしていなかったら、長男の私が弟を探すべく、3日間、広島市内をうろろ歩き回り、私は残留放射能の影響を受けて間違いなく死んでいたはずだ。つまり2回の大怪我をしたことで私の命は救われた。これはまさに「人間万事塞翁が馬」である。

結局、人生と言うのは、幸不幸が交互にやってくる。人生と言うのは不幸のどん底にあるからといってくじけちゃいけない。幸福の絶頂にあっても有頂天にならないように、何かのときに備えて慎重な生き方をしなければならない。

私は、「人間万事塞翁が馬」を地で行く終戦時の経験から、考えて見ますと良くぞこの年齢まで生き延びたものだと思最近感慨深いものを感じたわけであります。

あえて、皆さんにご披露した次第です。

◆卓話「健康について」

平成29年(2017)12月21日 例会

※川崎利秋さんは現在92歳で、TAMC最高齢の会員。日々健康管理には努められるも、今年は奥様を亡くされ、ご自身も3度倒れるということがあり、改めて健康について考えることがあり、標題について、いささかでも皆さんのためになるようにと、お話しくださいました。

「健康」の定義は、WHO（世界保健機構）では、「健康とは、ただ病気でないという状態のことだけではなく、何事に対しても前向きな姿勢で取り組めるような精神、肉体、および社会的な適応状態をいう」とあります。

具体的には、快い便通、何を食べてもおいしい、よく眠れる、風邪を引いてない、体重が変わらない、すぐに疲れない、毎日が明るく楽しい、といったことがそろった状態です。

江戸時代の僧侶の仙厓（臨済宗中興の祖で博多聖福寺の住職）という人が、老醜を歌った面白い「老人六歌仙」という有名な戯れ歌を作っています。



皺しわがよる 黒子ほくろができる 腰曲がる
頭はげる ひげ白くなる
手は震う 足はよろつく 歯は抜ける
耳は聞こえず 目は疎くなる
身に添うは 頭巾襟巻 杖眼鏡
たんぼ温石 尿管しびん孫の手
聞きたがる 死にともながる 淋しがる
心は曲がる 欲深くなる

くどくなる 気短くなる 愚痴になる
出しゃばりたがる 世話焼きたがる
またしても 同じ話に 子を褒める
達者自慢に 人は嫌がる

京都府立医科大学の山田博士の「暦年年齢と生理年齢」という研究では、大脳の血を採って血液の若さを調べると、同じ年齢でも「若さを保っている人」と「老け込んでいる人」との個人差があることが判明したという。

すなわち、35歳では±4歳、45歳で±6歳、55歳で±7歳、65歳で±8歳、75歳で±9歳の差が出たという。年を取るほど、差が開くそうです。

人の一生の体の変化について、一般的な傾向として、「向老期」（40～49歳）と呼ばれる時期には、運動能力、体力が衰え、血管などの組織が硬化し始める、「初老期」（50～59歳）には白髪・老眼など老人的傾向が出てくる、

「老年期」（60～79歳）となると、老化現象が進み動作が遅くなります。但し個人差が大きい。そして、80歳以上は「老衰期」と呼ばれ、内臓器官の衰えが見られ、関節が硬くなるという次第で、人間の年齢の推移と体の変化をこのように分類して説明することができます（乳児期から壮年期までは省略）。

老人社会学では、一応65歳をもって「老人」とし、それ以前を「老人前期」、以後を「老人後期」と呼んでいます。

それで、健康を維持し、少しでも老化を遅らせるために、いかにすべきかということについて、有名な遺伝子学の権威村上和雄博士の説によると、心も体も人間が活性化するためには、遺伝子のスイッチをONにしなければならないとのこと。遺伝子のスイッチをONにすると心も体も活性化する。そのためには3つの条件がある。

1. 志を高く持つ、
2. 感謝の念をもって生きる
3. プラス思考を持つ

この3点を心がけると心も体も活性化するとの説を唱えています。

そのほか、実際に健康で長生きされた方の老化防止の方法を紹介します。

- ・御木本幸吉（真珠王）[97歳]は、勝沼精蔵博士から伝授された健康法で、小魚と海藻類をよく摂る食生活。
- ・唐牛敏世（かろうじ びんせい：みちのく銀行頭取）[104歳]の健康法は「正寝法」。大の字に寝て、手足の指の屈伸運動とマッサージ30分。「来てみればさほどでなし白寿かな」
- ・牧野富太郎（独学の大植物学者）[90歳]の場合は、気概と執念。「我が姿たとえ翁と見ゆるとも心はいつも花の真盛り」
- ・斎藤茂太（精神科医）[90歳]の長生きの秘訣は「笑うこと」。「一怒一老」ではなく「一笑一若」でストレスを克服。数病息災こそ健康の秘訣という。
- ・松原泰道師（臨済宗妙心寺派住職）[101歳]のモットーは「生涯修行、臨終定年」。車椅子生活で、できる修行は読む、書く、話すだけと、「南無の会」で辻説法。
- ・日野原重明（「生活習慣病」という言葉の生みの親）[101歳]の元気で楽しく生きる健康の秘訣は「良い習慣」。腹八分目となるべく歩くこと（『生きるのが楽しくなる15の習慣』講談社+α文庫）。
- ・鼻地三郎 [107歳] 百歳になってから5回も世界一周旅行を行った人で、その健康長寿の秘訣は、一口30回噛むことと冷水摩擦、棒体操（『百歳時代を生きぬく力』東洋経済新報社）。
- ・橋本武（98歳で灘校の教壇に立った伝説の国語教師）[101歳]は、100回以上噛むことだけが唯一の健康法。趣味も多彩

（『伝説の灘校国語教師の「学問のすすめ」』PHP 文庫）。

- ・やなせたかし（90歳を超えても超多忙で活躍された、アンパンマンで人気の漫画家）[94歳]は、90歳を前にして10回も手術を受けたが、その後も超多忙を乗り切るため腕立て伏せを朝、昼40回ずつ行い、しょうが料理など健康レシピも考案した。
- ・柴田トヨ（詩人）[101歳]は、92歳から詩作をはじめ、詩集『くじけないで』を98歳で上梓して100万部売れる。第二詩集『百歳』と合わせると200万部で、海外5ヶ国でも出版された。

以上をまとめると、大事なことはプラス思考でいること、適度な運動をすること、趣味など何か打ち込むものを持つこと、この3つが大事だと思います。

体にいい健康法は、とにかく習慣化することが大事です。「人間は習慣の奴隷」といった人がいますが、習慣化すれば続けることは簡単です。

私が現在習慣化している健康法は、毎日青汁を飲む、小食でよく噛むこと、速歩でよく歩くこと（新聞、雑誌で紹介される）、起床時は青竹踏み500回、腕立て伏せ80回、柔軟体操10分が。入浴中浴槽で両拳握り100回と両脚の前後動500回。

まだまだ100歳を目指して頑張っています。



2020年9月12日 Zoom 例会に参加

【追悼篇】

◆川崎利秋さんとの思い出

村上 日出夫

川崎さんは、1992年に入会され、2023年7月15日に会員在籍中で他界されました。享年97歳でした。2018年までは、私と一緒に発表会で演じていただき、コロナ禍でも2年前まで ZOOM に参加され TAMC を愛する長老でもありました。

川崎さんは彌永さんと懇意にしており、お二人の力で、私を TAMC に入れて頂きました。

私が入会した当時は、川崎さんから、いろいろマジックについての演技、考え方などをご教示して頂きました。また、秋の発表会については彌永さんと3人で毎年演じさせて貰いました。

その後、彌永さんが退会されたので、鈴木さんに加わって頂き、川崎さんを超魔術師の「リッキーさん」として髭を付けて発表会に何度か出演してもらい、好評を受けました。

また、月2回ある例会について、その帰りは、お互いの家が比較的近いせいもあり双方の下車駅である JR の武蔵境までご一緒し、いろいろと電車の中でご高説を賜り、私からは、経営に対する悩みなども相談させて頂き、大変助かりました。

川崎さんは、マジックの他に日本ダーツ協会の会長及び吹き矢の団体の役員、経営に関する講演会も年に何回か講師として講演されて最後には聴講者にマジックをお見せして人気を得ているとのことでした。

その他には、血液占いに凝っているようで、血液占い同好会を月2回10数名集めて開いているとのこと、何事も研究熱心な方でした。私も血液占いに興味があったので、「当たらない場合もかなり有りますよね」と言ったところ、「性格と気質は違うのですよ。性格は本人の努力で変えられますが、持って生まれた血液型による気質は、変わらないよ」とおっしゃってました。それでは、「マジックの好きな方の血液型は何型が多いですか」と聞いたところ、過去に TAMC のメンバーを調べたらしいのですが、B 型と AB 型が多いとのことでした。となると B の血

は、出たとこ勝負に強いので、マジシャンに向いている様です。現在の TAMC は、どうなっているか調べたいところですが個人情報問題で無理かも知れませんね。

その他、健康にはかなり気を付けていらっしゃるようで、毎朝、腕立て伏せを80回、懸垂を数十回、冬でも部屋中の窓を全部開けて寒風摩擦していると聞かされビックリしました。

そのおかげで、長寿を全うされたことに敬意を表したいと思います。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

◆川崎さん追悼

森田 晃

川崎さんが亡くなった。栄光・苦難・復活と続いた TAMC の平成の時代が遂に終わったと云う感じがする。

僕と川崎さんの関わりは、僕が TAMC に入会する前、僕の父森田銈治郎の葬儀のときに、ときの TAMC 会長だった川崎さんに送辞を読んで頂いたことに始まる。その後 父の沢山の遺品の整理に、小永井さん、坂本さんと共に来宅されて、遺品を散財させるのは勿体ないから父の跡を継いで入会せよと言われたことで お付き合いが始まった。平成7年11月のことである。

子供の頃からマジックに多少の興味を持っていた川崎さんが本格的にマジックを始めるのは、僕の父のマジックを宴席で見たことによる。川崎さんがセーラー万年筆の経理課長のときに、僕の父が社長をしていた会社に建屋を発注した。そのため父の会社が設けた宴席で、父の余興のマジックを食い入るように見ている人がいた。川崎さんである。そこで「そんなにマジックがお好きなら TAMC に入会しませんか」と父に言われたのが川崎さんが TAMC に入会した経緯である。昭和37年暮れのことであった。

入会翌年の昭和38年、川崎さんは第18回大

会に早速初出演して僕の父の直伝の「テープ切り」を演じたが、入会はしたものの未だ仕事が忙しくて例会は殆ど欠席していた。それにも関わらず「大会だけは出演しなさい」と云う僕の父の言葉と準備と指導で、大会には18年連続欠かさず出演したことは語り草になっている。

昭和54年に会社を変ったら木曜日が休日だったので、時間の余裕を得た川崎さんはマジックの活動に本腰を入れる。高木重朗さんを師と仰いで練習に励んで、阿部徳蔵さんの「近頃銀座風景」「秋」「若狭の水」、高木重朗さんの「五つの袋」「天一のサムタイ」など先輩たちの名作を大会で数多く演じている。これだけ多くの先輩たちの名作を大会で演じたのは川崎さんだけだろう。その中でも「若狭の水」は川崎さんの十八番となってTAMCの大会で3回、会社の宴席でも多数回演じられたと聞く。また会社では営業を担当したので顧客との付き合いに有効なサムチップ、シルクなどが得意芸になったようだ。

このようにTAMCで活躍するようになった川崎さんは、TAMCの大久保彦左衛門と云われた安藤徳次郎さんの跡を継いで昭和58年に幹事長に就任して、平成2年まで8年間在任した。このときから数年間のTAMCは会長：森田、名誉会長：坂本・堤、堀、上野、副会長：池田・安藤、松本、企画部長：高木、幹事長：川崎さんと云う そうそうたるメンバーが並んでいて、正に栄光の時代を形成したのである。

しかし平成4年に会長に就任した川崎さんには苦難が待っていた。平成2年に第一生命ホールが使えなくなってからは会の財政状態が急激に悪くなって、星稜会館を使って大会の規模を1年おきに縮小せざるを得なくなったのである。翌年への繰越金が数万円しかないと云う状況にありながら、歯を食いしばって、この苦難を乗り越えている。

一方で川崎さんは安藤徳次郎さんと親交が厚くて、マジック以外の活動を数多く一緒に行っている。石原莞爾・平和思想研究会、秋田雨雀・土方与志記念青年劇場、安岡学研究会、西式健康法などであって、大変に奥深くて幅広い活動であったが、これらはTAMCには直接関係ないので内容は省

略する。関心がある方は創立80周年記念誌の川崎さんの投稿を読みたい。

大久保彦左衛門：安藤徳次郎さんに関して森田は、あるとき川崎さんが同席する別室に呼ばれて、森田の大会に対する考え方ややり方はTAMCの精神に合致しているの、このまま続けるようにと云われたことがある。そんな訳で お二人は僕の心の支えになっていた。

川崎さんが血液型による性格判断に一言を持っていたことは有名である。その中で面白かったのは日本の血液型は大半がA型とO型でB型とAB型は3割しかいないが、TAMCではB型かAB型でないとい會長になれないという一言である。確かに、森田、池田、川崎、持永、多湖、都築、坂本、山本までが全てB型か AB型なのである。

80歳を過ぎてからも川崎さんの大会への出演意欲は旺盛で、彌永さん、村上さんの企画演目にリッキーさんの芸名で93歳まで出演した。古い時代は分からないが、93歳での大会出演は、TAMCの最高齢記録ではないだろうか。実は川崎さんは「ぶら下がり健康器」に晩年までぶらさがっていた。そのために手の皮は出来た豆でガチガチでごつく、そのような手でサムチップやカメレオンシルクを得意芸としていたとはとても信じられない。でも このぶら下がり健康法が、歴代会長の中で99歳の池田さんに次ぐ第2の長寿だった理由かも知れない。ご冥福を祈る次第である。

◆川崎利秋大先輩との思い出

犬竹 一浩

私は1988年にTAMCに入会しました。森田銚次郎さん(現会員の森田晃さんのご尊父様)と、川崎利秋さんの二人の紹介でした。

川崎さんはセーラー万年筆(株)の取締役の後、1972年以降はミサワホーム(株)に入社され取締役、常任監査役を歴任されました。

非常に紳士的で真面目で努力家で、しかも、オチャメな面もありました。

戦争の関係で人生に於いて二度、死の淵をさました事があったそうですが、その経験から「人生は

一度きりだから出来るだけ長生きして楽しく生きよう」と言う考え方を力説しておられました。

手品やあらゆる分野の趣味で社会貢献を積極的に実施され、その時に短歌

『百歳を超えるまで生きて
マジックを教える わが姿想いつ』
と詠んでおられます。

又、血液型人間学研究会代表として、血液型と性格や適性なども研究されていました。TAMCの会員には、B型と AB 型の人が多いという話を耳にした事があります。B 型は出たとこ勝負に強い、と。

ちなみに、川崎さんは何型ですかと尋ねたところ、B 型で奥様も B 型でした。

『(性相近く習い相遠し)
B型夫婦も50年過ぐ』川崎さんの短歌

私の自宅に奥様とお見えになった時の事である。奥様のことを「お～い、お～い」と呼んでいたため「川崎さんらしくないですよ」と言う「静子さ～ん、静子さ～ん」と呼び返しました。奥様はビックリして「ハ～イ、ハ～イ」と飛んでこられた事を鮮明に覚えています。すごく、オチャメな方でした。

入会して11年目「犬竹さん、未だTAMCで(南京玉すだれ)を舞台上で演じた人はいないから、2人で挑戦してみませんか？」と、声をかけられ、即、快諾しました。1999年の事でした。

八王子に事務所を構えていた南京玉すだれ界のトップ、芝辻たかし先生(元国鉄の OB)の処へ2人で半年以上通い指導を受けました。

この年のヤクルトホールでの秋の大会に2人で演じ大成功を収めました。あの独特な衣装をNHKエンタープライズのエグゼクティブプロデューサーをなさっていた山本玄一さんのお手配で着ることが出来、良く似合っていると二人で喜びあいました。

TAMCの集団は実に素晴らしい実行力と知恵の塊のように感じました。夢というものは、人との出会いから生まれ、そして連鎖を起こし、心の中に風を起こして勇氣と深い絆が生まれるものだと、言われています。

ここで、川崎さんのお陰で私の人生に忘れる事の出来ない思い出を述べさせていただきます。

川崎さんと同郷広島出身の紺野逸郎さん(TA

MC会員で2010年ご逝去)とも非常に親しくなりました。奥様は有名なオペラ歌手でした。ハワイ島の最大の町「ヒロ」に移住され「何時か我が家に遊びに来てください」と言われ妻と出向きました。ハワイ島は美しい自然に囲まれ世界遺産のキラウエア火山やマウナケア山からの満点の星空など最高でした。

紺野さんはヒロ市のロータリーメンバー。私は埼玉日高のロータリーメンバーです。そこで、紺野さんより紹介して頂き、3種類のマジックを披露して大喝采を受けました。

又、私が(株)ヤオコーの総務部長をしていた時川崎さんより「ミサワホームの総務部長・児玉さん(川崎さんの秘蔵っ子)が全国総務部長会の方々と1年間の総務関係セミナーを受講するので一緒に勉強しては、どうですか？」とお誘いがありました。この結果、児玉部長(宮城県出身)とも真の友となりました。

その後、首都圏を統括する支店長に昇格されました。個人的には、アパート3棟の建築をお願いし、続いて、明治12年に建てた母屋と庭にある特定郵便局舎を、ミサワ関連の元宮大工の方々の力で1年9ヶ月の時間をかけ、大改築をしました。この様なさまざまな出来事も川崎さんとの出会いに於いての縁、ご指導、ご紹介の賜物と深く感謝しております。

今、川崎利秋さんの思い出を執筆するに当り、造詣の深かった、血液型、ダーツ、広島原爆体験、短歌等々、ご健在中に、もっともっと、お聴きしておくべきだったと大変に悔やまれてなりません。

安らかにお眠りください。 合掌

(2023/08/10)

◆川崎利秋さんの思い出

氣賀 康夫

TAMC の会員とお付き合いしていると、奇術は「長寿の良薬」であるという印象を持ちます。

老後の生活については何の心配もなく、また趣味もなく、毎日食べる、寝るのほかは、新聞とテレビを見るだけというのでは生活に張り合いがなく長寿に

も意味がありません。一方、趣味を持つ人を見ると、それが生きがいになっているので、長寿のもととなる前向きな人生を送っておられることがわかります。

TAMC の諸先輩で山脇さん、多湖先生、川崎さんなどは健康法にも注意をしておられ、これなら100歳越えは間違いないと、個人的にお手本として尊敬しておりました。

しかし、このたび川崎さんを失って感じることは、百歳まで生きるということとはなかなか難しいものだという実感です。「まれ」と言われた古稀なら現在では超えることができるが、百歳はいまでも遠いと実感します。今は「百寿はまれなり」というべきでしょう。

川崎さんには個人的にもミサワでお世話になりましたが、TAMCでも長年ご健在で、若い方に交じりながら舞台でも最近までご活躍でした。そしてサムチップをご愛用で、例会などで名演技を何度も拝見しましたが、そのときの笑顔が忘れられません。このたび、天国に旅立たられるに際してもサムチップのご持参はお忘れにならなかったと思います。ご冥福をお祈り申し上げます。

◆川崎利秋様を偲んで

蔵原 克治

97歳の天寿を全うされた川崎利秋様のご逝去の報に接し、心からお悔やみ申し上げます。

川崎さんは多湖先生や、小永井さんと同じ年齢で、TAMC第14代会長を務められ、多大な貢献をなさいました。

川崎さんは「サムチップとハンカチ」で、ご高齢にも関わらず、見事な演技を見せて頂きました。又、小永井さんと共演された「若狭の水」が印象的に残っています。大変温厚な方で、どなたとも快く接しておられました。

私とは住まいが近く、小金井市に住んで居られましたので、年に数回、武蔵境の喫茶店でお会いして数時間、マジック談義を交わしました。勿論、マジックの演技についてのお話しも楽しく拝聴させて頂きましたが、それと同時に人生訓についての貴重なお話を有難く聞かせて頂きました。

特に自分の人生は全て「人間万事塞翁が馬」であったというお話しが印象に残っています。90年の人生の中で、その実体験を細かくお話し頂きました。広島での原爆投下の日の様子や熊本での足切断の間際の様子などのお話しが印象に残っています。川崎さんから頂いた教訓を大切に、人生何が起るか判らないので、決して高ぶらず、落ち込まず、日々の生活を大事に過ごして参りたいと思っています。

ご冥福をお祈り致します。

◆川崎利秋様の追悼文

池内 和彦

川崎利秋氏にはいろいろとお世話になり、想い出がたくさんあります。

学士会館の個室を借切り、私一人だけで「シルクとロープのマジック」の個人指導を受けました。とても丁寧に親切に教えてくれました。川崎利秋氏の演じるマジックは自然に行っている演技の素晴らしさに感動しました。



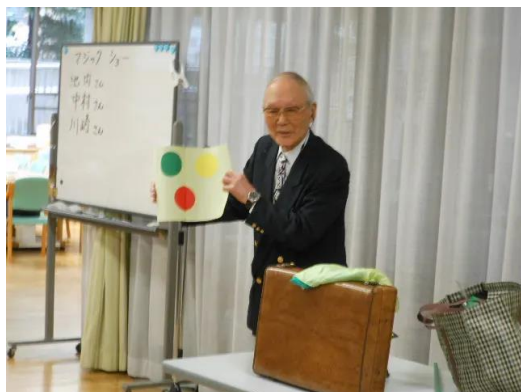
学士会館での個人指導

その時に「元気の秘訣は何ですか？」と尋ねてみますと、①毎日多く歩くこと、②食事はよく噛むこと、③目標を定めること、④日記をつけること、⑤本を読んで覚えて記憶すること、等々を語っておりました。

継続をすることと記憶力が凄いことに感心をしました。サミュエル・ウルマンの「青春」を全文を語って語ります。(2016年4月30日)

ボランティアマジック出演にも数回同行をさせて

いただいたことがありました。デイ・ホーム上北沢でマジック披露をした時に、観客たちに川崎利秋氏が90歳を超えていると紹介をすると60名ほどの人たちがビックリしていました。



デイホーム上北沢でマジックを披露

その時に演じたのは、光の移動、双六マジック、カラーレコード、神田祭、カードマジック、お札マジックなどを披露しておりました。その後の打ち上げの時間にお聞きした話の内容がとても面白く参考になることが多くあります。川崎利秋氏は戦争と広島原爆では九死に一生を得る凄い体験をしていました。



TAMC 懇親会で乾杯の発声

TAMC では第14代会長(平成4年～8年)に就任しておりました。

「一笑一若、一怒一老」の精神をもとにTAMCの理念を正統に推進をして若手の育成と組織の発展に尽力されていた素晴らしい方です。

川崎利秋氏のご指導に感謝してご冥福をお祈り申し上げます。合掌

◆川崎大先輩の思い出

近藤 誠

川崎大先輩に突然、声を掛けられたことを思い出しました。

入会間もない頃、リハーサル会場へ向かう路上で、後ろから、いきなり、『君！近藤君だったな！』と声を掛けられました。

名前を覚えていただいていたのも恐縮しましたが、会場までの道すがら、マジックのお話は無く、＜多湖先生との馴れ初めや共通の趣味のお話＞をずっとされていて、楽しかったことを思い出しました。

当時の印象1

『TAMCはマジックという趣味で集っている団体だが、それ以外の趣味でも、親交を深めていらっしやるのだな。』と思いました。

当時の印象2

何度かボランティア活動も一緒にさせていただきました。『川崎大先輩、高齢だが、サムチップがとても上手で一流だな。』と当たり前と言え当たり前ですがそう感心したのを思い出しました。

ボランティア後の喫茶店での反省会の際、お聞きしたら、氏曰く、『自分が入会した当時、仕事が忙しく、発表会のマジックもまともに練習ができなかった。(近藤の記憶違いかも知れませんが)森田さんのお父さんからこれだけでいいからと、徹底的にサムチップを利用したマジックを叩き込まれた。』とおっしゃっていました。

まさにお人柄もさることながら、一芸に秀でた素晴らしいサムチップでした。

大先輩の意志を継いで、我々も、何か一つ、誇れるマジックを身につける必要性を痛感しました。

当時の印象3

私の話や同席した方達の話に対しても、『うん、うん、そうですか』と真剣に聞いて下さいました。歳を取ってくると、人の意見を聞けない人間が出てきますが、流石、大先輩は違いました。

私も女房から色々言われる事が多くなりましたが、『人の言葉に耳を傾ける姿勢』は大いに学びたいと思いました。

川崎大先輩のご冥福を、心よりお祈り申し上げます。(合掌)

◆川崎利秋さん追悼文

山崎 孝一

川崎さんの最近の動向を知る事が出来ず、心配をしていた矢先に突然の訃報を受け、大変驚きました。心よりお悔やみ申し上げます。

1962年入会の大先輩で、また仕事面でもご縁があったことから特別懇意にさせていただきました。マジックでは特に巧みなロープの演技が強く印象に残っています。また後年には発表会舞台でのリッキーさんがはまり役で大変人気がありました。

これからまだまだ長生きして頂こうと思っていたので誠に残念です。

川崎さんが安らかに永眠されますよう、ご冥福を心からお祈り申し上げます。

◆川崎利秋さんを偲んで

柳川 幸重

私が TAMC に参加させて頂いた1980年代初期には、すでに会員歴20年になっていらした川崎さんにはとても親切なご指導をいただきました。

広島で被爆された時の、ガラス片で全身傷だらけになったというお話を聞いた時は、よくご無事で！と驚いたことを今でもよく覚えております。

マジックを心から愛していらしたお気持ちは、引きついでいきたいものだと思っております。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

◆川崎さん追悼

高橋 哲夫

川崎さんとはマジックのことは直接話したことはなかったですが、会員発表でお話を伺うにつけ人生万事塞翁が馬ということを実感できました。

皆さんご存じの話としては、兵隊に行つて、病気で広島に帰つてきて、原爆の当日に窓ガラスの破片を全身に受けて、暫く動けなくなつてしまつたことなどの話は今も覚えています。

でもそのおかげで生き延びることが出来たというのは人生いろんなことが起きるものだと思ひました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

◆川崎さんの思いで

鈴木 眞弓

彼は広島出身で子供頃被爆して窓ガラスが割れて血だらけになつたそうです。義父も授業中吹き飛ばされたそうです。百歳まで生きました。

氏は九州大学に入学して、人相をよく見て皆様に喜ばれたそうです。多芸多彩な方で、手品の他血液型に興味を持ち、月に一度学士会館で会合を開き、孔子、釈迦、キリストは何型か、今年の野球はピッチャー、キャッチャーは何型で今年はどこが優勝するのか、など論議しました。終わつて会食です。

氏はミサワに勤務していたとのこと。私の家の外装もお願いしました。

手品では村上さんが中心になり、私も入れてもらい、氏は長老としてリッキーさんで活躍しました。その時吹き矢、ダーツなど連れて行つて頂きました。楽しい思い出でいっぱいです。

心から御冥福をお祈りします、

【LINE に寄せられた会員メッセージ】 (発言順)

三好勉 川崎さんは私の母と同年でした。いろいろご指導いただきありがとうございます。ご冥福をお祈りいたします。

田澤利明 川崎さんは97歳だったのですか？耳こそ遠くなられた様ですが、2年前まではZOOMにも参加されてお元気だったように思いましたが残念です。私もかわいがっていただきました。ご愁傷様です。謹んでご冥福をお祈りいたします。

関克己 川崎さんが亡くなったのは、とても残念です。私もいろいろお世話になりました。ご冥福お祈りしております。

濱谷堅蔵 川崎さんの訃報に接し、謹んでご冥福をお祈りいたします。

またひとり、重鎮が亡くなり寂しくなりました。

吉室誠 川崎さんの訃報に接し、謹んでご冥福をお祈りします。当方がTAMCに入会するときの紹介者でした。活動をあたたかく見守ってくださいました。

蔵原克治 川崎さんのご逝去に心からお悔やみ申し上げます。小金井にお住まいの為、時々武蔵境の喫茶店でお会いしてマジック談義をしていました。大変お世話になりました。ご冥福お祈り致します。

村上日出夫 川崎さんがお亡くなりになられたとの事、びっくりしました。謹んで、ご冥福をお祈り致します。私とは、発表会で、10年以上にわたり、毎年、リッキーさん役をお願いしており、大変お世話になりました。感謝しております。いろいろ思い出すことがあり、感無量です。本当にご苦労様でした。

近藤誠 川崎先輩のご冥福を心からお悔やみ申し上げます。

高橋忠利 川崎利秋様には、大変お世話になりました。心からご冥福をお祈りします。

松岡尚登 川崎さんのご逝去に接し、心からお悔やみ申し上げます。残念です。ニッショーホールの控え室で、川崎さんから「健康法」についてご高説を拝聴したことがあります。80代後半で腕立て伏せ80回、ぶら下がり鉄棒、腹筋、サラダを欠かさず召し上がっているなど興味深いお話しでした。「サムチップとシルクの使い方」についても教えていただきました。古き良き「TAMCらしさ」を保持されていた紳士でした。ご冥福をお祈り申し上げます。

倉持賢一 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

山崎邦宣 川崎さんのご逝去を知り驚いております。色々なお話しを聞いたり、マジックを教えて頂きました。ご冥福をお祈り申し上げ

げます。

氣賀康夫 川崎さんのご逝去は悲しいお知らせです。100歳まで、肉体的にも精神的にもお元気という先輩として目標にしていたので、残念です。思い出すのはサムチップの名演技でした。ご冥福をお祈り申し上げます。

池内和彦 川崎利秋様のご逝去をお悔やみ申し上げます。ボランティアマジックで一緒した時の思い出が蘇ります。

健康維持のために身体管理を大切にしているお話はとても参考になりました。

また学士会館でシルクマジックの研修を個人指導を受けとことは私の財産となっております。

TAMCの精神と理念を持っております方であり、人に対しての優しさがとてもありますことは見習うお手本となっております。

川崎利秋様のご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

井上由基 川崎先輩の御逝去、心よりお悔み申し上げます。TAMC入会の時を始め、南京玉すだれの講習会参加や、色々なマジックのご教授、90過ぎて、元気で頑張れる健康法等、懐かしく思い出します。どうぞごゆっくり、おやすみください。合掌

柳川幸重 謹んでお悔やみ申し上げます。

出水博造 謹んでお悔やみ申し上げます。

中村紀典 川崎さんは色々な健康法を実践していたので100歳以上生きると思っていたのですが、残念です。ご冥福をお祈りします。

【編集後記】

7月23日、帰宅途中の中央線快速の車内で、携帯に登録のない電話番号からの着信があった。誰かわからず、面倒な電話であれば車内で話すのも憚られ、大事な要件ならばまたかかるだろうと、その場はスルーした。

その後、その電話のことはすっかり忘れていたが、翌日の昼前、再び同じ番号からの着信履歴に気がついた。よく見ると、固定電話の番号で市外局番が0422。学生時代、武蔵野市に住んでいた時の自分の局番と同じだったので、その近辺に住む知人なのかと、いろいろ思いを巡らし、もしやとTAMCの名簿を確認したら、川崎さんのご自宅。

その時点で、最近例会にもお出になっていなかったの、いやな予感がした。

すぐに電話をかけると、ご息が出られて、川崎さんが7月15日に亡くなられたとのご報告。亡くなる一ヶ月前くらいから、急速に体調を崩されたとのこと。

川崎さんは、100歳までは生きることが目標にされていた。会員の誰もが、元気な川崎さん、健康に人一倍こだわっていた川崎さんは、100歳までは生きると思っていた。けれども、追悼文で氣賀さんが書かれていたように、今のような長寿の時代でも、人は100歳まで生きるのは難しいのだろう。ご本人は悔しい思いをされて逝ったかもしれないし、案外そうではなくて、自分の人生に満足して、安らかに眠りにつかれたのかもしれない。

自分としては、後者のように思いたい。

晩年の例会での講話は、ほとんどが健康に関するものであるが、あらためて、今回収録した川崎さんの遺稿を見ると、それはご自身の病気との闘いの反映であったことに気がついた。

「わが闘病記」(寄稿)では、2014年の1年間いろんな大病をされて、たいへんだった様子が描かれている。当時89歳。この年齢でこれだけの病気をすれば、普通はそのまま寝たきりになるところだが、川崎さんは、回復に努められ、2015年10月第1例会では「長寿の秘訣」、11月第2例会では「健康についての話」を発表するなど、復活を遂げられた。ところが、2017年には、奥様を亡くされ、ご自身も3

度も倒れた。それでも、その年最後の12月第2例会に最後となる出席をされ、「健康について」を話された。

川崎さんの健康論の特徴は、単に肉体的な健康の維持だけではなく、精神も含めた生活上のクオリティの維持を重視することだ。

今回、遺稿篇と追悼篇の二部構成としたきっかけは、追悼文の募集をした際、「人間塞翁が馬」の会報記事を載せて欲しいと、田澤利明会員からの要望があったからである。その会報の担当は田澤さんであった。

そういえば、自分も会報担当で、何度か川崎さんの発表の録音を翻刻して会報に載せたことがあることを思いだし(例えば今回収録の最後「健康について」もそうである)、記念誌、会報から川崎さんの講話的記事を収録することを思いついた次第である。

会報発行を電子化し、古い会報や記念誌もPDFにして保管したおかげで、これだけ遺稿を見つけることができた。まだ見落としがあるかもしれないが、一人で行った作業なので、その場合はご容赦願いたい。

最後に、川崎さんは、血液型人間学の大家として会員にも知られて、当会の例会でも講話として話された要旨を収録したが、日本経営協会が発行する『Omni-management(オムニマネジメント)NOMA経営情報誌』という雑誌に掲載された記事を国立国会図書館のデジタルアーカイブで見つけたので、それを収録して、川崎さんの追悼号を閉じたい。



ビジネス社会に提唱する

「血液型人間学」の大家

川崎利秋さん

■プロフィール

広島県出身。大正14年10月12日生まれ。昭和26年、九州大学経済学部卒業。同年、セーラー万年筆(株)入社。昭和45年、取締役。49年、ミサワホーム(株)取締役。54年、ミサワホームエンジニアリング(株)社長。現在、ミサワホーム(株)常勤監査役。血液型人間学研究会主宰、東京アマチュア・マジシアンズ・クラブ会長、安岡学研究会代表世話人。血液型B型。



血液型が合わないから、あの人とは相性が悪い、という言い方をする人を見かけることがある。また血液型によって、どの仕事が向くとか向かないとかいう人もいる。「血液型人間学」という言葉をご存じだろうか。一口でいうと、自分の血液型の特性を知ることによって自身の人間的成長に役立たせ、さらに各血液型の特性を理解することで、よりよい人間関係を作ろうとするのが、血液型人間学だ。その草分け的存在であり、権威でもあった能見正比古氏(故人)と出会ったことで、血液型人間学の虜になった人がいる。川崎利秋さんである。能見氏亡きあと、その遺志を継いで、その普及・啓蒙に情熱を注いでいる。今回は、血液型に魅せられたビジネスマンの話である。

取材のため、東京・新宿のNSビルにあるミサワホームを訪ねた。名刺交換のあと、早速「あなたの血液型は？」ときた。「さっそく聞いてきたな！」。テーマが血液型だけに血が騒いだというのは冗談だが、川崎さんはなぜそれほど血液型にのめり込んだのだろうか。

昭和50年頃、ミサワホームの人事部長だった川崎さんは「血液型と人事管理」という、当時としては一風変わったテーマの講演会に出席した。講師は能見氏。「なるほど、さもありなん」と感心するとともに、能見氏に大いに魅せられた。

ここから、川崎さんと血液型人間学の熱い関係が始まる。早速、能見氏が主宰する、血液型で人間理解を目指すサークル「ABO(アボ)の会」に加入。さらに各界の識者を募り、本格的な研究集団を作りたいという能見氏の提案で、

「人間科学学会」が結成され、学者、劇作家、野球評論家、翻訳家といった多士済々のメンバーに混じって、ビジネスマンとしてはたった一人参加した。

やがて、川崎さんは血液型をビジネスの世界で役立てることに思い至る。そこで、血液型別にトップセールスマンを選び、各人のやり方を観察することで、各血液型の気質・特性がどのように活かされているかを分析・整理し、営業マン育成のノウハウとして活用した。

その内容は『血液型チームワークのすすめ』(講談社刊)に収められている。また、直営工事部門を発足させる際に、AB型の社員を中心にプロジェクトチームを編成し、大きな成果をおさめた等々、川崎さんの成功談は枚挙に暇がない。

ところが、昭和56年、能見氏が急死したこと

で、今度は自分が恩師の遺志を継ぎ、新たに「血液型人間学研究会」を主宰した。同会は現在会員数30名で、毎月定例会を開き、研鑽に余念がない。

血液型による適材適所へのアプローチ

それでは、川崎さんに血液型に関するウンチクの一部を披露していただく。読者のご存じないオモシロイ話が聞けそうだ。

プロ野球を例にとろう。トップバッターは出塁することが第一の役割だが、これには責任感の強いA型が向く。西武の辻、近鉄の佐々木など、パリーグのトップバッターにはA型が多い。クリーンアップには、プレッシャーに強いといわれるB型とO型をセットにすると強い。長島は典型的なB型だし、王はO型だ。トップバッターだった柴田はA型で、周知のとうり彼らを軸に巨人はV9を達成した。広島の本山浩二はB型で、衣笠はO型。かつて西鉄の黄金時代を築いた中西と大下もBとOである。

昨年日本シリーズはO型とB型の戦いだった。西武の森監督とキャッチャーの伊東はともにO型、ヤクルトの野村監督とキャッチャーの古田はいずれもB型である。O型とB型の丁々発止で、近年まれにみるオモシロサの日本シリーズになったことは記憶に新しい。

そこで大事なことは、こういったデータを知っているだけではなく、それをどう活かすかである。その際に一つのヒントになるのが「お・も・り・の・サイ・クル」といわれるものだ。

それぞれの血液型には、当然長所と短所がある。日本人の血液型の構成は、ざっとA型4割、O型3割、B型2割、AB型1割となっているが、例えばB型の場合、気さくで、あけっぴろげな気質だといわれるが、反面、お天気屋などところがある。だからノッているときは非常に強いが、そうでないときは気のぬけたビールのような感じになりやすいという。

つまり、血液型の気質傾向は、プラスにもマイナスにも働くのだ。

そのため、その血液型がもつマイナス面を、他の血液型のプラス面で補ってやる必要がある。

具体的には、B型をO型が、O型をA型が、A型をAB型が、AB型をB型が、という連環で、それぞれカバーしあうことが必要だ。この順序を間違えるとまずい。マイナス面が強く出てしまうことになる。これが「お・も・り・の・サイ・クル」である。

さて、このサイクルに基づいて、その組織の目的や役割に応じて、血液型の構成比を変えていくと効果的だ。例えば、既成の概念や固定観念を打ち破り、無から有を生むような基礎研究プロジェクトの場合は、B型を中心メンバーにして編成し、若干O型やAB型も入れる。応用開発型のプロジェクトならA型、具体的な商品企画ならO型を主力メンバーにするといいたいだろう。

といったように、どういう構成にするのが最もベターかを考えるのだ。「適材適所」という言葉があるが、血液型でそれを判断するのだともいえる。

人間関係の悩みは、人間の永遠のテーマであるろうが、それを血液型の視点から捉え直してみるのは意味のあることといえるだろう。

さて、「あなたの血液型は?」。

TAMC会報

川崎利秋君追悼特別号

令和5年(2023)9月発行

編集:梶田明宏(幹事長)